

日本一般用医薬品連合会主催

2024年度

『医療におけるOTC医薬品の価値』セルフメディケーションシンポジウム

生活者15万人調査から見た セルフメディケーション・セルフケア実践者の特徴

株式会社インテージヘルスケア
ヘルスケアマーケティング部 廣瀬 俊行

 intage

株式会社インテージヘルスケア

アジェンダ

1. セルフメディケーション税制申告者の動向
2. セルフメディケーション税制申告者の
セルフメディケーション意識
3. セルフメディケーション税制申告者へのインタビュー
4. まとめと考察

アジェンダ

1. セルフメディケーション税制申告者の動向
2. セルフメディケーション税制申告者の
セルフメディケーション意識
3. セルフメディケーション税制申告者へのインタビュー
4. まとめと考察

「セルフメディケーション税制」と「セルフメディケーション」

●セルフメディケーション税制（2017年1月1日スタート）



健康診断や予防接種などを受けている人が、一部のOTC医薬品（パッケージに上記ロゴが印刷されている、またレシートの品目に★などの印がある）を年間12,000円を超え購入した際に、所得控除を受けられる制度です。

※本書では「セルフメディケーション税制」を、一部「セルメ税制」と表記しています。

●セルフメディケーション

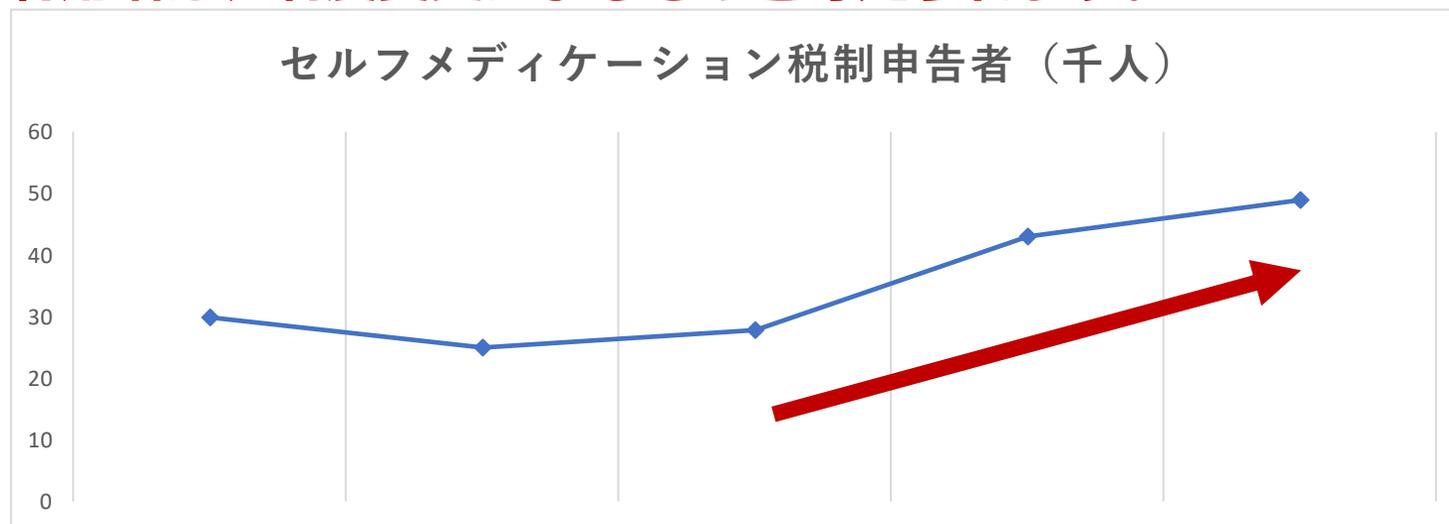
自分自身の健康に責任を持ち「軽度な体の不調は自分自身（セルフケア）で手当て」をすることです。正確な知識を持ち、OTC医薬品を上手に活用、健康管理をすることで、自分自身や家族、大切な人の健康を守り、医療資源の効率化につながります。

※日本一般用医薬品連合会 <https://www.jfsmi.jp/lp/tax/> より抜粋・追記。

セルフメディケーション税制、申告者の推移

➤セルフメディケーション税制の申告者は、まだ医療費控除の0.6%程度であるが、2021年分の2.8万人から、2022年分4.3万人、2023年分4.9万人と利用増。

⇒ 2022年分の利用増は、制度変更によるものと考えられます。



（千人）	2019年分	2020年分	2021年分	2022年分	2023年分
医療費控除申告者	7,560	7,245	7,429	7,569	7,851
セルフメディケーション 税制申告者数	30	25	28	43	49

※国税庁 令和6年5月より引用、作図

2022年分からの制度変更点（品目拡大など）

SKU : Stock Keeping Unit
在庫管理上の品目数
数値は2023年1月1日、厚労省発表

2021年分まで

スイッチOTC
(医療用から転用された医薬品)

代表的なカテゴリーの例
総合感冒薬（かぜ薬）
胃腸薬
鼻炎治療剤
外用鎮痛・消炎剤
解熱鎮痛剤
皮膚用薬（除殺菌）
水虫治療薬

品
目
拡
大

2022年分以降

スイッチOTC
(医療用から転用された医薬品)

代表的なカテゴリーの例
総合感冒薬（かぜ薬） ※2,693 SKU
胃腸薬
鼻炎治療剤
外用鎮痛・消炎剤
解熱鎮痛剤
皮膚用薬（除殺菌）
水虫治療薬

+

非スイッチOTC

拡大したカテゴリーの例 ※3,958 SKU
総合感冒薬（かぜ薬）
鼻炎治療剤
外用鎮痛・消炎剤
解熱鎮痛剤
皮膚用薬（除殺菌）
漢方薬、鎮咳去痰剤、目薬 など

+

● **品目拡大以外の変更点**

- ・ 証明書類（健康診断など）提出不要
*ただしこれらの書類は5年間保管必要
- ・ 制度の延長:適用期限が2026年まで延長

アジェンダ

1. セルフメディケーション税制申告者の動向
2. セルフメディケーション税制申告者の
セルフメディケーション意識
3. セルフメディケーション税制申告者へのインタビュー
4. まとめと考察

生活者15万人調査 実施概要（2024年実施の例）

▶ 今年度で10回目の調査。毎年ほぼ同様の対象者数で実施。

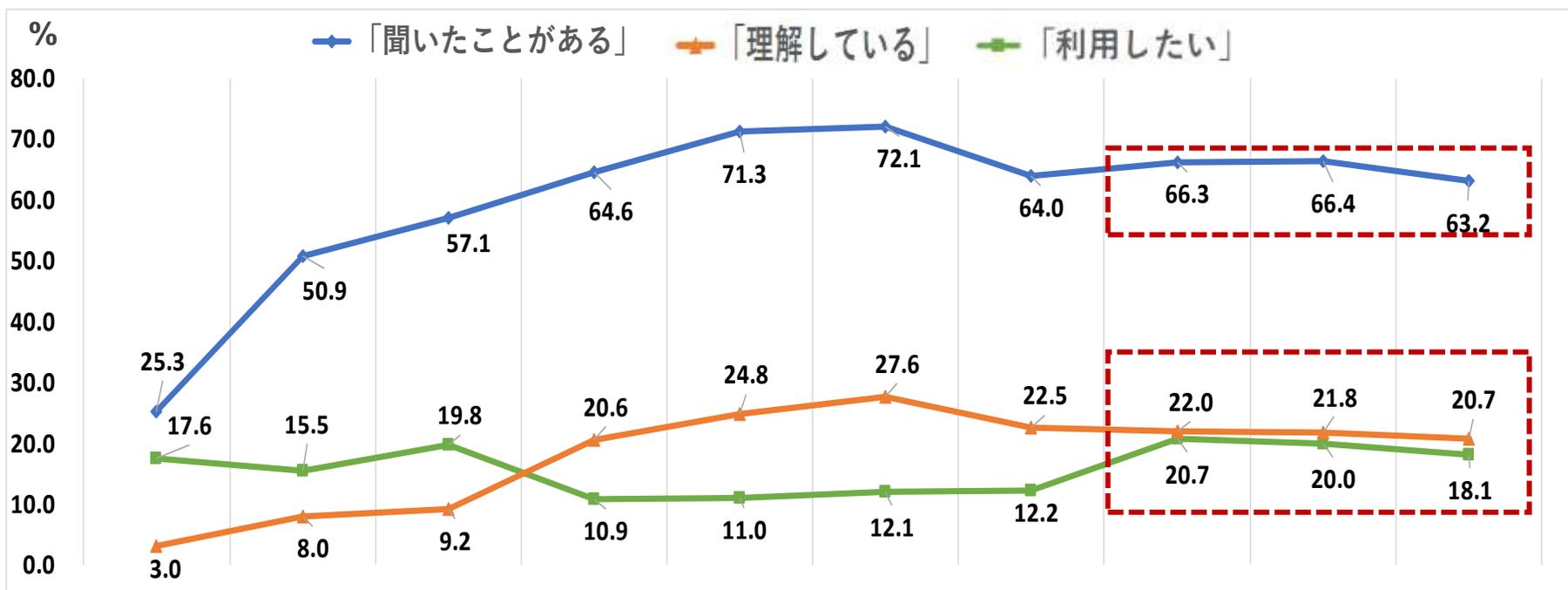
調査対象・地域	・ 全国の男女20～69歳
調査手法	インターネット調査
抽出フレーム	インテージグループ インターネットリサーチモニター ※調査モニター情報より、マスコミ、広告、市場調査会社・シンクタンク関連の勤務者とその家族は除外。学生を除外。
対象者数・調査項目数	■ 一次調査（SCR調査）：152,192サンプル 15問 ・ 日本の性年代別・エリア別人口構成比に合わせた ■ 二次調査（本調査）：1,219サンプル 15問 ・ 二次調査は、3年間の確定申告状況によって、セルメ税制申告者、医療費控除申告者、確定申告者、一般生活者【各申告なし】のセグメントに分けて調査
スケジュール	■ 一次調査（SCR調査）：2024/7/4（木）～7/8（月） ■ 二次調査（本調査）：2024/7/26（金）～7/30（月）
調査実施機関	株式会社インテージヘルスケア（日本一般用医薬品連合会より受託）
その他特記事項	・ ウェイトバック集計処理： 一次調査は性年代別・エリア別人口構成比率に合わせてウェイトバックを行なった。

セルフメディケーション税制

「聞いたことがある」「理解している」「利用したい」トレンド

➤ 「聞いたことがある」「利用したい」「理解している」の割合は、ここ3年間は横ばい。

⇒ 制度の「利用」は「理解」による相関が高いため、「理解」向上が課題。



2016年11月 (第1回調査) (n=1,144)	2017年3月 (第2回調査) (n=1,277)	2017年8月 (第3回調査) (n=1,167)	2018年3月 (第4回調査) (n=153,379)	2019年3月 (第5回調査) (n=160,378)	2020年3月 (第6回調査) (n=161,894)	2021年8月 (第7回調査) (n=158,751)	2022年3月 (第8回調査) (n=152,643)	2023年3月 (第9回調査) (n=152,625)	2024年7月 (第10回調査) (n=152,192)
----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------

SCRQ2.あなたご自身は、次のこと（セルフメディケーション税制説明文提示）をご存知ですか。（聞いたことがある）（理解している）
 SCRQ3.あなたご自身は、セルフメディケーション税制制度を利用したいと思いますか。（利用したい）

※「聞いたことがある」「理解している」については、「よく理解している」「ほぼ理解している」「聞いたことはあるが、あまり理解していない」「聞いたことはあるが、理解していない」「聞いたことがない」をいれて5段階評価から作成。第1回～第3回調査と第4回以降は表現を変えて聴取。

※セルフ税制について、「利用したい」「まあ利用したい」「どちらともいえない」「あまり利用したくない」「利用したくない」の5段階評価のうち、「利用したい」の値

セルフメディケーション税制「聞いたことがある」性年齢別

- 男性よりも女性の方が高い。
- 年代が上がるにつれて高くなる。

%	2016年11月 (第1回)	2017年3月 (第2回)	2017年8月 (第3回)	2018年3月 (第4回)	2019年3月 (第5回)	2020年3月 (第6回)	2021年8月 (第7回)	2022年3月 (第8回)	2023年3月 (第9回)	2024年7月 (第10回)
TOTAL	25.3	50.9	57.1	64.6	71.3	72.1	64.0	66.3	66.4	63.2
男性計	24.6	46.1	53.9	61.2	69.0	69.5	60.9	62.7	62.2	59.0
女性計	26.0	55.8	60.2	67.9	73.4	74.8	67.1	69.8	70.7	67.4
男性20代	21.7	33.0	45.2	50.4	56.9	54.8	50.4	54.5	52.8	48.7
男性30代	21.3	50.4	58.8	59.9	67.3	66.4	59.9	62.0	60.8	56.3
男性40代	27.7	47.6	52.5	59.7	68.4	70.3	62.7	62.3	62.4	59.9
男性50代	22.4	46.9	53.5	62.5	70.7	73.1	62.3	63.5	63.2	61.2
男性60代	29.4	50.4	59.5	70.7	79.1	79.3	67.1	69.9	69.8	66.6
女性20代	16.9	32.3	42.0	53.2	58.1	57.2	53.7	59.1	59.8	54.6
女性30代	15.7	57.0	60.5	66.2	71.2	73.3	66.2	69.0	68.8	64.7
女性40代	24.0	68.7	65.1	69.3	74.8	77.4	69.5	71.5	72.7	69.2
女性50代	33.4	60.4	65.0	72.2	78.1	80.2	71.2	72.6	73.5	71.3
女性60代	41.2	62.2	66.4	73.5	80.4	80.3	71.0	73.8	75.4	73.2

n = 152,192

セルフメディケーション税制「理解している」性年齢別

- 男性よりも女性の方が高い。
- 男性は60代が他の年代に比べ高く、女性は年代が上がるにつれて高くなる。

%	2016年11月 (第1回)	2017年3月 (第2回)	2017年8月 (第3回)	2018年3月 (第4回)	2019年3月 (第5回)	2020年3月 (第6回)	2021年8月 (第7回)	2022年3月 (第8回)	2023年3月 (第9回)	2024年7月 (第10回)
TOTAL	3.0	8.0	9.2	20.6	24.8	27.6	22.5	22.0	21.8	20.7
男性計	4.2	7.6	8.8	19.6	24.6	26.5	21.4	20.7	20.2	19.1
女性計	1.8	8.4	9.5	21.7	24.9	28.6	23.7	23.2	23.3	22.4
男性20代	4.7	8.0	10.4	16.2	16.8	16.8	17.2	19.6	18.3	17.2
男性30代	3.3	8.9	6.7	18.8	22.7	23.3	20.8	20.1	19.4	17.7
男性40代	6.3	7.0	5.9	17.6	22.5	24.6	20.9	19.0	18.7	18.0
男性50代	4.7	4.8	5.2	19.0	25.2	28.5	21.9	19.9	19.8	18.5
男性60代	2.4	9.0	15.7	25.6	34.3	37.5	25.4	25.4	24.9	24.1
女性20代	1.7	4.7	6.5	13.1	14.5	15.4	16.1	17.1	18.4	16.8
女性30代	0.0	8.5	5.5	19.3	20.2	23.3	21.6	21.6	21.2	20.3
女性40代	0.0	11.6	7.9	21.5	24.3	28.5	24.3	23.2	23.3	22.0
女性50代	1.9	11.5	13.2	25.1	29.0	33.9	26.9	25.5	25.5	24.6
女性60代	5.5	5.9	13.9	26.2	32.9	37.0	27.1	26.9	26.3	26.2

n=152,192

セルフメディケーション税制「利用したい」性年齢別トレンド

- 男性よりも女性の方が高い。
- 男性は、40代以上で高くなる。女性は30～50代が20%と高い。

%	2016年11月 (第1回)	2017年3月 (第2回)	2017年8月 (第3回)	2018年3月 (第4回)	2019年3月 (第5回)	2020年3月 (第6回)	2021年8月 (第7回)	2022年3月 (第8回)	2023年3月 (第9回)	2024年7月 (第10回)
TOTAL	17.6	15.5	19.8	10.9	11.0	12.1	12.2	20.7	20.0	18.1
男性計	17.1	14.3	19.5	10.4	10.6	11.6	11.6	19.3	18.7	16.4
女性計	18.0	16.7	20.1	11.3	11.4	12.5	12.8	22.1	21.4	19.8
男性20代	10.4	11.6	14.8	10.3	11.6	12.0	12.5	19.0	17.1	14.9
男性30代	19.7	17.1	26.1	11.8	11.5	12.3	12.1	18.8	17.9	15.7
男性40代	14.3	13.3	18.6	10.4	10.8	11.8	11.5	19.4	19.3	17.2
男性50代	15.0	12.7	15.5	10.1	10.2	12.0	11.0	19.7	19.6	16.6
男性60代	24.6	16.6	22.3	9.7	9.3	10.1	10.9	19.6	19.0	17.3
女性20代	14.4	13.4	16.8	11.5	11.9	14.1	13.7	21.3	19.6	19.1
女性30代	27.8	16.2	25.7	12.4	13.0	13.9	14.1	22.4	21.6	20.5
女性40代	12.4	23.1	19.8	11.4	11.8	12.8	12.7	22.7	22.3	20.2
女性50代	17.6	13.0	16.7	11.5	11.1	11.8	12.9	23.1	22.6	20.6
女性60代	18.3	18.5	21.3	10.0	9.6	10.6	11.1	20.7	20.4	18.2

n = 152,192

「セルメ税制申告者」の性年齢別の割合

- 「セルメ税制申告者」は男女とも30代・40代の割合高い。
- ⇒ 「聞いたことがある」「理解している」の結果と違い、
「セルメ税制申告者」は30代・40代の割合が高い。

	%	TOTAL	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代
■ 2023年分セルメ税制申告者 (本人+家族)		110	0.0	11.2	20.4	9.9	8.1	3.4	11.5	14.6	10.3	10.5
□ 2023年分セルメ税制申告なし		152,082	8.2	9.0	11.1	12.3	9.7	7.9	8.6	10.8	12.2	10.1

※セルメ税制申告者 = セルメ税制申告 + 購入12000円超・本人申告 + レシート保管

「セルメ税制申告者」の属性

➤ 「申告者」と「申告なし」の差が大きいのは、職業「公務員・団体職員」と、「未既婚」で若干差がある程度。

⇒属性では、性年齢差が最も大きい。

未既婚	n=	結婚している	結婚していない
TOTAL	152,192	52.4	47.6
■ 2023年分セルメ税制申告者 (本人+家族)	110	57.6	42.4
□ 2023年分セルメ税制申告なし (本人+家族)	152,082	52.4	47.6

%

職業	n=	会社員	会社役員・管理職	公務員・団体職員	自営業	自由業・専門職	派遣・契約社員	パート・アルバイト	小学生以下	中学生	高校生	予備校生	専門学生・短期大	専業主婦・専業主夫	無職	その他
TOTAL	152,192	32.9	6.6	7.4	3.6	3.2	6.1	15.8	0.0	0.0	0.1	0.0	1.8	11.1	9.7	1.7
■ 2023年分セルメ税制申告者 (本人+家族)	110	34.5	7.5	16.3	3.5	3.4	2.3	17.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.6	3.8	0.8
□ 2023年分セルメ税制申告なし (本人+家族)	152,082	32.9	6.6	7.4	3.6	3.2	6.1	15.8	0.0	0.0	0.1	0.0	1.8	11.1	9.7	1.7

%

同居子供人数	n=	0人	1人	2人	3人	4人以上
TOTAL	152,192	69.1	15.3	11.3	3.2	1.1
■ 2023年分セルメ税制申告者 (本人+家族)	110	72.1	13.5	11.9	1.6	0.9
□ 2023年分セルメ税制申告なし (本人+家族)	152,082	69.1	15.3	11.3	3.2	1.1

%

「セルメ税制申告者」のセルフメディケーション意識

- 「申告者」と「申告なし」の差が大きいのは「軽い症状であればOTC医薬品（市販薬）で対処」「OTC医薬品（市販薬）を家に買い置き」「OTC医薬品（市販薬）で早めの対処」「病院との使い分け」。
 - 「運動や睡眠などの生活習慣に気をつかう」など健康に関する意識が高い。
 - 「薬局やドラッグストアで、アプリ利用・同じチェーン店で買う」が高い。
- ⇒ 「申告者」は「申告無し」に比べ、OTC医薬品（市販薬）の活用や、健康行動、申告のための工夫など、セルフメディケーション意識・行動が高い。

		%	
		■ 2023年分セルメ税制申告者（本人+家族）	□ 2023年分セルメ税制申告なし（本人+家族）
n=		110	152,082
セルメ意識	軽い症状であれば、OTC医薬品（市販薬）で対処	51.5	19.7
	よく使うOTC医薬品（市販薬）を、家に買い置き	31.0	7.6
	OTC医薬品（市販薬）で早めの対処を行う	23.5	7.2
	病院に行くとき、OTC医薬品（市販薬）の使い分けを考える	14.2	3.0
健康意識	運動や睡眠などの生活習慣に気をつかう	37.2	18.6
	健康食品、サプリメントなど、栄養バランスを考えて食事を摂るなど、食生活に気をつかう	32.3	10.3
	健康管理のために、体重、血圧、食事・栄養、睡眠の状況などを継続して記録	13.6	7.2
申告のため	OTC医薬品（市販薬）のパッケージや購入後のレシートに、セルメ税制対象のマークを確認する	64.8	3.4
	1年間に薬局やドラッグストアで購入したOTC医薬品（市販薬）の金額を把握する	40.0	5.5
	薬局やドラッグストアで買い物する時は、アプリ（ポイントやクーポン等）を使う	28.7	9.2
	薬局やドラッグストアで買い物する時は、できるだけ同じお店（同じチェーン）を使う	24.8	7.0

SCRQ9. 普段の、あなたご自身の、薬局やドラッグストアでのOTC医薬品（市販薬）の買い物・対処や、病院の受診、健康に関する意識・行動について、あてはまるものをすべてお答えください。(1)2023年の1年間（2023年1月～12月）で行ったこと。（複数回答）

※複数の選択肢がある中で、差がある項目をピックアップ

「セルメ税制申告者」がOTC医薬品（市販薬）を購入した症状（購入者ベース）

- セルメ税制申告者は、「熱・頭痛などの風邪の症状」「鼻のアレルギー」「のどの症状」「頭痛」の症状全般で購入する割合が高い。

	%	
	■ 2023年分セルメ税制申告者（本人+家族）	□ 2023年分セルメ税制申告なし（本人+家族）
	n= 110	152,082
熱・頭痛、咳や痰がでる、のどの痛みなどの風邪の症状	72.2	45.1
鼻のアレルギー症状（鼻づまり・鼻汁・くしゃみなど）	52.6	18.9
風邪以外の、のどの炎症による声がれ、のどの腫れ、のどの痛み	40.4	13.7
頭痛※片頭痛は除く	37.0	16.7
目の疲れ、目のかすみ、目の乾き	30.7	16.6
腰痛、関節痛、肩こり	30.6	12.6
目のアレルギー症状（かゆみ、充血、腫れなど）	25.9	12.6
胃の痛み、胃酸過多、胃もたれ・胃のむかつき・胸やけ、消化不良など	24.4	11.8
皮膚のかゆみ、湿疹、発疹	19.7	13.6
生理痛	14.3	8.6
下痢、便秘、痔疾	10.8	10.2
片頭痛	7.0	9.0
疲れ・だるさ・倦怠感	3.3	5.9

SCRQ7.あなたは、2023年の1年間（2023年1月～12月）に、OTC医薬品（市販薬）またはOTC検査薬（一般用検査薬）を購入したとお答えになりました。
 (1)購入したOTC医薬品（市販薬）またはOTC検査薬（一般用検査薬）はどのような症状の対処のために購入しましたか。（複数回答）

※複数の選択肢がある中で、差がある項目をピックアップ

参考：2023年分セルフメ税制申請の「きっかけ」

➤ 2023年分申告のきっかけは「合計金額が12,000円を超えそう」「毎年セルフメ税制で控除を行いたい」「申告対象の範囲拡大」が3大理由。

⇒ 3年間の申告回数別では、1回の申告者は「医療費控除申告額に達しない」「合計金額が12,000円を超えそう」と受動的な理由が上位であるのに対し、2, 3回の申告者は「毎年セルフメ税制で控除を行いたい」「医療費をかけずにOTC医薬品（市販薬）を購入するようにしていた」と、セルフメディケーション行動の習慣化による理由が上位となっている。

	%	■ 2023年分セルフメ税制 申告者（本人+家族）	ここ3年間の申告回数		
			1回	2回	3回
	n =	135	25	40	70
対象となるOTC医薬品（市販薬）の合計金額が12,000円を超えそうだったので		31.9	32.0	32.5	31.4
毎年、セルフメディケーション税制で控除を行いたいとおもっているので		31.1	4.0	25.0	44.3
2023年から申告対象のOTC医薬品（市販薬）範囲拡大され、下限額（年間12,000円）を超えやすくなった		31.1	12.0	32.5	37.1
2023年は医療費控除の申告額が10万円に達しなかった		26.7	36.0	20.0	27.1
2023年から申告対象となるOTC医薬品（市販薬）の範囲が拡大され、申告できる医薬品の年間購入額が増えた		22.2	24.0	22.5	21.4
2023年から手続きが簡素化（健康診断などの書類の添付または提示が不要になった）されたので		15.6	12.0	20.0	14.3
医療費をかけずに、OTC医薬品（市販薬）を購入するようにしていたので		11.9	0.0	15.0	14.3
対象となるOTC医薬品（市販薬）のレシートのマークを見て興味をもったので		9.6	8.0	7.5	11.4
対象となるOTC医薬品（市販薬）の「セルフメディケーションの税 控除対象」のロゴを見て興味をもったので		9.6	8.0	10.0	10.0
コロナ禍以降、医療機関の利用を控え、OTC医薬品（市販薬）を購入するようにしていたので		8.1	8.0	12.5	5.7

Q2.令和5年（2023年）分の確定申告：【引用 SC4(1)】とお答えいただきましたがセルフメディケーション税制（医療費控除の特例）で控除を申告あてはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

※母数は「2023年分セルフメ税制申告者（本人+家族）」ですが、二次調査のため、n数が一次調査と異なります。
 ※複数の選択肢がある中から上位項目を抜粋。申告回数1回の人数が25のため参考値となります。

アジェンダ

1. セルフメディケーション税制申告者の動向
2. セルフメディケーション税制申告者の
セルフメディケーション意識
3. セルフメディケーション税制申告者へのインタビュー
4. まとめと考察

セルフメディケーション税制申告者へのインタビューの実施概要

- 申告までの経緯をより詳しく知るため、セルフメディケーション税制申告者へのインタビューを行いました。

調査対象	2024年一次調査セルメ税制利用群
調査地域	全国
調査手法	リモートによるデプスインタビュー調査
抽出フレーム	2024年7月実施の一次調査対象者のうち、調査対象条件に該当し、インタビュー参加許諾を得られた人。 <調査対象者条件> <ul style="list-style-type: none">・ 30~40代男女・ 過去3年間で、セルメ税制で控除を受けた人・ 申告書類を保管している
調査ボリューム	1人あたり60分
実施日程	2024年9月
調査実施機関	株式会社インテージヘルスケア（日本一般用医薬品連合会より受託）

※インタビュー対象者に対し、インタビュー発言の広報活動などへの活用は許諾いただいておりますが、匿名性の観点より、実施人数、性別、職種名、具体的なOTC医薬品（市販薬）名、ドラッグストア名などは、非表示もしくは表現を一般名などに変えています。

申告者の特徴とセルフメディケーション税制利用のきっかけ

- 申告者の特徴は、確定申告、ふるさと納税、住宅ローン控除など「所得控除意識」が高いこと。また、ウォーキングや食事など日常生活での健康行動あり。
 - 申告のきっかけは、確定申告時や、健保からのお知らせなどでセルメ税制を知り、日ごろ買っているOTC医薬品（市販薬）で申告ができることを知ったこと。
 - 申告しようと思うことで「常備薬を置いてみよう」という行動が起きていることが特徴的。
- ⇒申告の動機は、所得控除である。

	職業 居住地 同居人	お金の 意識行動	確定申告状況	健康状況・ 健康診断	セルメ税制 認知①	興味・関心 理解	利用検討 きっかけ～決定
40代	会社員	・家計簿アプリ使用 ・ふるさと納税、新NISA ・情報はネット	・複数回 ・セルメ税制3-4回 ・住宅ローン控除、ふるさと納税目的 ・打ち出して税務署提出	・健康 ・ウォーキング ・飲食気にかけている ・会社の健康診断	・初回確定申告作成時 ・節税情報収集中ネット記事	・どういものが使えるの だろうと思ってレシートを 見た ・日ごろ使用する薬で節 税できるお得感	・お得感から悩まずに利用 決定 ・簡単、取り組みやすい
30代	自営業	・節税情報積極的 ・ふるさと納税 ・ideco	・5、6回目 ・セルメ税制1回 ・ふるさと納税目的	・健康 ・ダンス系 ・食事は野菜多め ・地域の健康診断	・確定申告2・3回目の確 定申告時の申請書類を 調べているとき	・控除が増えるのはいい ・必要なものを買い税が 減る ・対象商品リストを見た ・レシートを集めていない し1.2万円には届かない だろうと諦めた ※初めて知った時	・箱とレシートを見て、 買っている薬が控除対 象と分かりやりたいなど 思った ・買おうと思うもので控除 できる
40代 夫婦	会社員 共働き、小学生の 子供	・家計管理は自分 ・家計簿、投資あり ・ふるさと納税、新NISA ・検索はネット	・5回目 ・セルメ税制1回 ・ふるさと納税 ・医療費控除2回（市 販薬を含めてよいと知ら ない）	・健康 ・ウォーキング ・会社の健康診断	・テレビで見て調べた ・会社の健保からのお知らせ でも見た	・医療費控除ではない控 除があると驚いた。1.2 万円以上買わないとな ので、初めて知った時機 会がない気がしてやらな かった。	・子供が忙しくなり時間が かかる病院に行けなく なった。常備薬を置こう となり、この制度を使う

申告者のセルフメディケーション意識

- OTC医薬品（市販薬）について、「手軽、気軽」「OTC医薬品（市販薬）で治る」「常備薬を置くことで楽」であり、OTC医薬品（市販薬）の価値を感じている。
- 病院は、「待ち時間が長い」「診療時間内に行けない」「病気をもらいそう」という印象。一方、未経験の症状の時には受診する。
- セルメ税制への要望は、対象品目拡大、申告最低金額1.2万円より下げる、制度期間延長。
⇒このことから、セルメ税制申告をきっかけにOTC医薬品（市販薬）の価値をより感じ、常備薬を置くなど（利用を増やす）してセルフメディケーション行動を起こしている。
⇒セルメ税制に対しては、対象品目の拡大、申告の簡易化、期間延長の要望をもっている。

	OTC医薬品（市販薬）について	病院について	セルメ税制に対しての要望
 40代	<ul style="list-style-type: none"> ・身近 ・常備薬としてストック ・OTC医薬品（市販薬）で治せる ・遅い時間でも手に入る ・病院に行くまでもない症状の時に飲みやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの時は受診した ・相談できる、トータルで治してくれる ・混んでいる ・病院は5-6時で閉まってしまう ・余計な病気をもらいそう ・薬がたくさん出るから飲むのが大変 ・コロナ禍になってから行きにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象商品が増えたら申告できる ・期間も伸びたいいな
 30代	<ul style="list-style-type: none"> ・手軽に手に入る ・安くはない ・買い置きできる ・まずはOTC医薬品（市販薬）で様子を見る 	<ul style="list-style-type: none"> ・耳鼻科に通院していた（待たされる、薬がセルメ税制で買える） ・高熱時は受診（車中問診で疑問） ・病院はできるだけ行きたくない ・すごい待つ、日程調整が必要、病気をもらうかも ・必要な人は行くべきだが、多くの高齢者を見て医療費が気になる。私は健康なので市販の薬で済ませたほうが時間とお金の節約になると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・申告最低金額1.2万円より下げたら、控除しやすくなり、多くの人が使うと思う。病院に行く人が減り、社会全体の医療費が下がる ・いい制度なので継続してほしい ・全部ではないけど、3類のトローチ、一部サブリも適用してほしい
 40代夫婦	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に、自分が使いたいタイミングで使える ・常備薬を置いてから、こんなに楽なんだと思った 	<ul style="list-style-type: none"> ・最近あまり行かない。経験のない症状（腹痛）時は受診した ・子供の成長に伴い時間が取れないライフスタイルになり病院に行かなくなった ・信頼はできる ・待ち時間が長い 	<ul style="list-style-type: none"> ・1.2万円以上の基準下げて ・対象がより広がるといい。胃腸薬や酔い止めも対象にしてほしい ・マイナンバーを薬局に出したら紐づけて管理してほしい。アプリは続かない

アジェンダ

1. セルフメディケーション税制申告者の動向
2. セルフメディケーション税制申告者の
セルフメディケーション意識
3. セルフメディケーション税制申告者へのインタビュー
4. まとめと考察

まとめ

●各章のまとめ

1. セルフメディケーション税制申告者の動向
 - ・対象品目拡大、申告の簡易化によって申告者は拡大する。
2. セルフメディケーション税制申告者のセルフメディケーション意識（15万人調査から）
 - ・「セルメ税制申告者」は「申告無し」に比べ、OTC医薬品（市販薬）の活用や、健康行動、申告のための工夫など、セルフメディケーション意識・行動が高い。
 - ・利用のきっかけは、申告回数2, 3回の申告者において「毎年セルメ税制で控除を行いたい」「医療費をかけずにOTC医薬品（市販薬）を購入するようにしていた」とセルフメディケーション行動の習慣化による理由が上位となっている。
3. セルフメディケーション税制申告者へのインタビューより
 - ・セルメ税制申告のきっかけは「所得控除を行いたい」というのが最初の動機であるが、この申告をきっかけにOTC医薬品（市販薬）の価値を感じ、常備薬を置くなどのセルフメディケーション行動を起こしている。
 - ・セルメ税制に対しては、対象品目の拡大、申告の簡易化、期間延長の要望をもっている。

●まとめ

現在の申告者は「セルメ税制で所得控除を行いたい」と金銭面が申告動機であるが、同時にOTC医薬品（市販薬）の価値を感じ「常備薬としてストックする習慣（利用の維持もしくは利用を増やす）」「軽い症状であればOTC医薬品（市販薬）で対処」などの傾向がみられる。

このように、セルメ税制はセルフメディケーション意識や行動を維持し、習慣化につながるものと推察される。

考察

- 考察（セルフメディケーション税制申告者拡大のため＝セルメ税制の理解度向上）
 - ・ 制度として、申請下限12,000円を下げる、対象商品範囲の拡大、申告の簡易化、制度の継続・恒久化が考えられます。
 - ・ 申告者拡大として、申告手続きを経験している「医療費控除者」に対して、「セルメ税制の認知」と「治療または療養に必要なOTC医薬品（市販薬）も医療費控除の対象に加えることが可能」であることを伝えることが考えられます。
毎年OTC医薬品（市販薬）レシートの保管をしてもらい、医療費が10万円に満たない年は「セルメ税制」の申告を推奨することで、セルメ税制申告の拡大が見込めると推察されます。
 - ・ 同様に、ふるさと納税、確定申告者へのセルメ税制理解の推進が考えられます。
 - ・ さらに、セルメ税制の申告を普及させるためには、申請の簡易化が考えられます。薬局やドラッグストアの会員アプリなどが活用できれば、申告の簡易化となる可能性があります。セルメ税制申告者は常備薬として同じ店舗で買う傾向があるため、整備コストはかかりますが、薬局やドラッグストア側でも顧客ロイヤルティUPにつながり、メリットとなる可能性があるテーマと考えられます。

ご視聴いただき、誠にありがとうございました。

また、生活者15万人調査にかかわった
皆様に感謝申し上げます。

 **intage** 株式会社インテージヘルスケア

Healthier Decisions

我々は情報に命を与え、医療を享受する人、医療を提供する人、
健康を願うすべての人々が納得の選択をするための力となります